流星のロックマン戦い後の日々

零音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
流星のロックマン戦い後の日々

【Ｎコード】
Ｎ８２７７Ｋ

【作者名】
零音

【あらすじ】
スバルがブラックホールサーバーの戦いを終えてからの話

転校生

アシュリーでーす

今回初めて流星のロックマンの小説を書きます。まだまだ分からないことばかりなのでアドバイスお願いします※流星のロックマンを知っている設定で書かしていただくので細かい説明などは、いたしません。
リクエストがあるばわいはどんどんしてください。
設定※ロックマンの正体は知られていない

流星のロックマン3の裏シナリオは終わっている。

大吾は、帰って来ている。
アニメキャラは、でません。（めんどくさいから）（、д、

男子達の想像（前書き）

タイトル微妙

男子達の想像

「それじゃあ響の席はどうするか」

その瞬間クラスの男子（スバル、ツカサ、ジャック以外）の目が光る。

男子達はミソラが自分の席の隣にきたときの想像を初めた。

「あ～全然分からないよ～」

「どこが分からないの？」

「ここがわからないの」

「ここは、これをここにやって後は、計算するだけだよ」

「本当だ教えてくれてありがとう。お礼と言っちゃなんだけど今度いっしょにデートに行かない？」

「俺何かでいいならぜひ」

なんて言うことがあるかもしれないと男子達は思った。

しかしその夢は一瞬にして滅んだ。

「先生私スバルくんの隣がいいです」

ミソラがスバルの隣がいいと言った。

その瞬間スバルはクラス男子の殺気を感じたという。

3つの理由

休み時間

「ミソラちゃんは、どうしてこの学校にきたの？」

「そうよ。あなたがいきなりこの学校に来るなんてありえないわ」

「その件については、理由が3つあるの」

「へぇ～でどんな理由なの？」

「一つ目の理由はドラマの撮影場所が近いから」

「そうなんだ。で2つ目の理由は？」

「前の学校だと友達と言った人がいなかったから。でもこの学校だとスバルくんやルナちゃん達がいるから」

「それじゃ3つ目の理由は？」

「ごめん。その理由はちょっとみんなの前じゃ話せないんだ」

「話せないなら仕方がないね。まあとりあえずこれらよろしくミソラちゃん」「うん。こちらこそよろしくね。スバルくん。話しがあるから放課後屋上に来てくれない」

「うんわかった」

そして放課後

「スバルくん先にいってるから」

「わかった。僕も後でいくから」

「あの二人怪しいわね、スバルくんの後追いかけるわよ」

「おう」

「はい」

委員長、ゴンタ、キザマロはスバルの後を追いかけた。

「全くあれじゃストーカーじゃねぇーか」

「フフッそう言うジャックくんだって追っかけてるじゃないか」

「ちぇ、ばれちまったか」

のんきな二人だった。

３つの理由（後書き）

クラス替えしたけど知ってる人が誰もいない（；Д；）

二人の思い（前書き）

電車の中で投稿しました

二人の思い

「お待たせミソラちゃん」
「ごめんねいちいち屋上に呼び出して」
「大丈夫だよ。それより話しって何？」
「うん。話しって言うのはね」
ミソラは深呼吸して言った。
「私スバルくんのことが好きです。よかったら私と付き合ってください」
「えぇ〜〜〜〜〜」
ミソラはもじもじしている。
「僕何かでいいの？」
「私スバルくんとブラザーを結んだ時から好きだったたから私にはスバルくんしかいないの」
「実は僕もブラザーを結んだ時から好きだった。本当に僕何かでいいんならよろしくお願いします」
「本当にやった〜」
「ちょっとミソラちゃん」

ミソラがスバルにだきついた。その時。

「あら、二人して何してるのかしら？」

いつもの五人がやって来た。

スバルの恐怖

「何でミソラちゃんがスバルくんに抱きついてるのかしら？」

委員長が言ったわ。

「そうだぞスバル」

「そうですよスバルくん」

続けてゴンタとキザマロが言った。

「え～と、あの～、その～」

「言い訳は聞かないわよ」

「ミソラちゃんちょっと離れて」

しかしミソラは離れない。そして委員長がじわじわ怖い顔をしながら近づいて来る。

（ひぃ～殺される）

スバルはそう思った。

「さてたっぷり話してもらうわよ」

しかしスバルの反応がきえた。

「あれ？スバルくんルナちゃんが怖くて気絶しちゃった。私、スバルくんの家に連れて行くね。トランスコード　ハープノート」

そういってミソラはこの場を去った。

「きぃ～覚えてらっしゃい明日たっぷりと吐かしてもらうんだから」

そのあと委員長が怖くて誰話さなかった。

3つ目の理由（前書き）

早くドラクエジョーカー2買いて〜

3つ目の理由

「スバルくん起きて」

しかしスバルは、起きない。

「こうなったら」

ミソラはスバルのくちびるに自分のくちびるをつけた。いわゆるキスだ。ミソラはキスをやめない。スバルは息ができなくなり苦しくて起きた。

「ミソラちゃん何してんの」

「スバルくんがおきないからこうやったら起きるかなって」

「それよりここどこ？」

「スバルくんの部屋だよ」

「いちいちここまで運んでくれたの」

「スバルくんルナちゃんが怖くすぎたらしく気絶しちゃったの」

「ふ～ん。それよりミソラちゃんそろそろ帰ったほうがいいんじゃない？」

「えっ？スバルくんお母さんから何も聞いてないの？

「えっ？何を？」

「本当に聞いてないんだ。スバルくん」

「何？」

「私転校してきた３つ目の理由スバルくん知ってると思ったからあえてみんなのまえで話さなかったの」

「それで３つ目の理由は？」

「私今日からスバルくんの家に同居するの」

「えぇ～～～～～！！！！！」

この日をさかいにスバルの平凡な日々が終わった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8277k/

流星のロックマン戦い後の日々

2010年10月10日13時23分発行